

## 先生・お薦めの一冊

### 『せつない動物図鑑』

ブルック・バーカー著 (ダイヤモンド社)

地歴公民科 植村 諭 先生

書店で何気に目につくのが、変わったタイトルの動物図鑑である。『ざんねんな動物図鑑』、『続・ざんねんな動物図鑑』がそれだ。さらにもう一つある。『せつない動物図鑑』(ダイヤモンド社)である。

せつないってどういうことか?おんちのクジラは迷子になる・・・カラスは嫌いな人間の顔を忘れない・・・ハトはめんどくさいことを先のばしにする・・・こういうことらしい。

著者は動物に関する本を読んだことで、動物だって彼らなりの「せつなさ」をかかえていることに気づいた。そして、私たち人間がそうであるように、きっと動物にだって悲しいことがたくさんあり、それでも、動物たちは一生懸命生きている。そんな動物のことを身近に感じてもらいたいらしい。

では動物たちの何がせつないのか?ちょっとしたせつない告白、できなくてせつない、恋はせつない、そのこだわりがせつない、へんてこでせつない、すごいけどせつない、おとなになるのはせつない、さみしくてせつない、子育てだってせつない・・・せつないと感じずにぜひご覧あれ。

[せつない 切ない] (形) 悲しさ、寂しさ、恋しさなどで、胸がしめつけられそうな気持ちである。

「切ない思い」「切なくて涙がこぼれる」

~『現代国語例解辞典』(小学館)より~



## 2年図書委員 お薦めの本

『BOX!』百田 尚樹 著 (太田出版)

部活動に慣れてきて、緊張感や楽しさが薄れ始める頃に読むと、また部活動に励みたくなる・・・そんな本です。主人公や天才肌のライバルが、日々努力を続ける姿。そのライバルとの様々な場面での友情にも心を動かされます。

『君の肺臓をたべたい』住野 よる 著 (双葉社)  
この本の主人公は、私たちと同じ高校生です。クラスメートに病気を隠している主人公は「仲良しくん」と出会います。「仲良しくん」との楽しい思い出など、引き込まれる場面の多い作品です。同世代だからこそ共感できることもあります。ぜひ読んでみてください。

『阪急電車』有川 浩 著 (幻冬舎)

この本は様々な悩みや不安を抱えた阪急電車の乗客たちを、各駅ごとに描いた短編集です。上りと下りの電車での物語が、少しずつ繋がっていきます。全てを読み終えた時に話がリンクする感覚は、まさしく短編集の醍醐味とも言える一冊です。

『謎解きはディナーのあとで』東川 篤哉 著 (小学館)  
この本はただの推理小説ではありません。登場人物が個性豊かで面白いうえに、お互いが話し合うシーンでは益々面白くなるという人物ありきの推理小説です。推理小説ファンだけではなく、多くの人にお薦めします。

『虹色ほたる～永遠の夏休み』川口 雅幸 著 (アルファポリス)

ある日、ユウタという小学六年生の男の子が数十年前にタムスリップして・・・。今ではダムの底に沈んでしまった村で、ユウタが村の子どもたちと夏休みの一ヶ月をともに過ごすという物語です。子どもたちの会話がいきいきと書かれています。堅苦しい表現もなく、あまり本を読まないという人でもすぐに『虹色ほたる』の世界に入れますよ!

# 10月の貸出統計

1年101冊 2年37冊 3年109冊 合計247冊



学年 組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	6	2	9	30	14	26	4	10	0	4	0	2	17	3	10	1	0	9	0	9	46	5	35	5
合計	101冊								37冊								109冊							

## 新着図書

『ホワイト ラビット』伊坂 幸太郎 著（新潮社） \*伊坂幸太郎の新作です！

『銀河鉄道の父』門井 慶喜 著（講談社） \*息子とどう接するべきか・・・天才の父はいろいろ大変みたいです。

『こどもブッダのことば』齋藤 孝 監修（日本図書センター） \*子どもから大人まで、誰にでも分かるブッタの言葉

『日本の地下で何が起きているのか』鎌田 浩毅 著（岩波書店） \*日本列島は大地変動の時代に入つたらしい・・・。

『日本の英語、英文学』外山 滋比古 著（研究社） \*日本の英語はどこでボタンをかけ違えたのか。外山先生の辛口エッセイ。

### クローズアップ新着本

『表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬』若林 正恭 著（KAOKAWA）

オードリーという漫才コンビをご存じですか？そのオードリーの若林さんの本が実に面白いのです。カバーニャ要塞は1763年に建造されたキューバの要塞で、いまではキューバを代表する観光地のひとつです。この本は若林さんのキューバ紀行です。ではなぜ、キューバに？それは、この本の最後に書かれています。キューバは日本人にとって、距離的に遠い国というだけではなく、文化や国民性などもベールに包まれた国のひとつでした。アメリカとの国交を回復し、これからどんどん変わっていくであろうキューバ。キューバの魅力満載のこの本で、ありのままのキューバを旅してみませんか！

## chokichoki 切り抜き chokichoki

新聞や雑誌は貴重な情報源です。もちろん新しい情報だけでは小さな引き出しに過ぎませんが、その情報をどのように活用するかで、大きな引き出しにもなります。例えば、2015年4月28日から南日本新聞に連載された井部俊子さん（聖路加国際大学長）の「シリーズ看護師がいます」の切り抜きは、今でも看護師を目指す人に一読をすすめている大切な資料です。また、本年度9月に南日本新聞に掲載された「かごしま いのちを見つめて」というシリーズの切り抜きは、本県の在宅医療の実情が分かる貴重な資料です。これらの切り抜きの情報だけではなく、『看護 ベッドサイドの光景』（増田れい子著・岩波新書）や『聖路加病院の訪問看護科』（上原善広著・新潮新書）などを読み込むことで、初めて切り抜き等で得た情報が活かされてきます。

2016年の雑誌AERA7月4日号の「子どもの貧困」特集も冊子にしました、教師を目指す人や社会学を学びたい人たちに活用されています。もちろん『子どもの貧困－日本の不公平を考える』（阿部彩著・岩波新書）などの関連書籍も紹介しています。情報を情報で終わらせず、関連する書籍で深く考えることが大切です。

図書館にある切り抜きは、先輩たちからの情報の賜です。「○○大学の面接でこんなことを聞かれた・・・」とか、「△△大学の小論文ではこんな問題が出題された・・・」というようなことを参考に、新聞や雑誌から関連の情報を収集しています。この先輩方からの貴重な情報を、大いに活用してください。また、皆さん自身もそれぞれ工夫して冊子を作ってみてはいかがでしょう。図書館にある新聞は翌日、雑誌は次の号が出たら著作権は切れますのでコピーすることもできます。なによりも強力な資料になるはずです。

～司書室から～

## 編集後記

もうすぐ12月、慌ただしい季節の到来です。こんな時こそ読書を楽しみましょう！植村先生のお薦めの本は「せつないけど愛おしい」動物がたくさん登場します。心が和みます。読書で、心も体もリフレッシュしてみてはいかがですか。



読書は心のカイロです！